

# 会報ひまわり

第7号

## 目次

- 1: 支援者講座のご案内
- 2: ペアレントトレーニングを受講して(参加者感想)
- 3: 代表から〈ペアレントトレーニングから～大切なこと～〉

## 支援者向け講座のご案内

当会では、9月から11月にかけて、全6回にわたります“支援者向け講座”を開催する運びとなりました。

本講座に関しましては、現職の保育士や学童スタッフの方、及び今後活動予定の方などを対象とさせていただきます。

そのため内容といたしましては、1回～4回目までは、“概要”及び、様々な場面を想定いたしました上での“子どもへの介入法”についての講義となり、5回目に“個別指導計画の作成方法”、6回目には“個別指導計画作成実践”というプログラムにより進めていく形となっております。

また、保護者の方や他機関との連携など、包括的な議題につきましても講義内容に組み込み、現場で業務を遂行されておられる方々にとりまして、具体的で分かりやすい内容となりますことに重きを置き、即戦力となりますことにねらいを定めております。

尚、今回の支援者講座は募集を締め切らせていただきましたが、各種講座に関しましては、また次回開催日程につきまして決定次第、ホームページの方にアップさせていただきたいと思いますので、ご興味をお持ちいただきました際には、是非ご一報いただけましたら大変幸いです。

それでは今後とも、NPO法人ひまわりの会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO法人ひまわりの会事務局

## ペアレントトレーニング基礎講座を受講しての感想

ペアレントトレーニング基礎講座に参加させていただきまして、誠にありがとうございました。

今回受講させていただき、お陰様で子育てに関するヒントをたくさんいただきました。

私にとって、子どもに対して、具体的に何をどのように行っていけばよいのか、今まではよく分からずにおりました。

けれども講義の回数を重ねていくうちに、少しずつ頭が整理されましたと同時に、こつこつと、そして無理せずにやっていくことが、結果的に効果を上げることにつながっていくことを学びました。

また、講義の中でも特に印象に残った内容の1つに、“ルール”についてのお話がありました。

「指導もコミュニケーションもルールにより成り立ち、コミュニケーションは対人関係における相互システムである。そのためにまずは家庭内でルールを作り、守らせていくことが、全ての基盤となる最も重要なことである。」という内容だったと記憶しております。

そして、そのために“子どもを上手に褒めること”“子どもの苦労を激励すること”の大切さにつきまして説かれました。

そのことを理解し、全ての講義を終えましたとき、私は、上記内容が全ての基盤となっていると思いき、視界が開けていく感じがいたしました。

その後、教えることをスモールステップにて段階を作るための課題分析を行う方法、問題行動の捉え方及びポイントを絞って介入していくための手続きについて等、斬新な、けれども非常に納得できる講義に、どんどん引き込まれていきました。

そして家に帰り、子どもと向き合った時に、今までよりも少し穏やかな気持ちでいる自分に気がきました。

それは、「解決方法は必ずある。」「失敗したらまたやり直せばいい。」という尾串先生のお言葉を、講義を通して自分なりに理解することができたからこそと思っており、今回受講が叶いましたことには大変感謝しております。

また最後になりましたが、講義にご一緒させていただきました保護者の方へも、心よりお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

代表から

当会報誌をごらん頂き誠にありがとうございます。

さて、遅くなりましたが、24年度のペアレントトレーニングが終了しましたので、当会報にてご報告させていただきます。

当会でのペアレントトレーニングは少人数制であり、質疑応答の時間も沢山取り、通常の講演会より蜜に時間を取ることができたかと思えます。

子どもへの指導の法則から、それを各領域に当てはめ、どのような指導が効果的なのかを検証していき、それを保護者の方々が日常でも行えるよう、様々なツールの活用方法を軸にお話させていただき、質疑応答に答えていく、そういった流れで各回の講義を行っていきました。

講義の中でお伝えしたいことは沢山ありますが、私が保護者の方への講義の中で常にお伝えしていきたいことは、「ルールを作った上で子どもの苦労を激励する」ということです。

子どもの困難に対して、その背中を押してあげるということは、口で言うのは簡単ですが、実は非常に難しいことです。

子どもにとって、不安なこと、面倒なこと、避けたいことなどは、日常生活ではつき物でしょう。

その中で、「ルールを作ったうえで、手伝い、到達方法を教え、沢山褒める」ことが、子どもがその行動に慣れていき、日常生活における行動を積極的に取り組んでいくことにつながっていきます。

また、「困難＝無理をさせること」ではありません。

子どもに無理をさせず、しかし苦労を激励していくために「課題分析」があります。

目標達成までのステップを細かく作り、それを子どもに合わせて進めていくことで、「子どもが無理なく課題到達まで進んでいく」ツールをつくることができます。

「課題分析によってステップを作り、子どもの背中を押してあげ、つまり激励し、手伝い、そして沢山褒める」、これは指導上の法則であると考えられます。

上記だけでなく、「上手な褒め方」や「子どもの行動の調整方法」についてなど、沢山お伝えしたいことがあり、その理由から、全1回の講義では困難であり、連続講義を行っています。

しかし、連続講義は日程を沢山とることから、1年間で複数行うことは、他の講義も開催していくため、中々難しくもあります。

9月からは支援者講座がはじまり、11月まで時間を要します。

また、来年にペアレントトレーニングは開催予定でございますので、準備が整い次第ホームページでもお知らせしていきます。

今後とも、ひまわりの会をよろしくお願い申し上げます。